



しいの木会報

K I Z U N A (絆 ・ きずな)

2015～2016 年度

会員の絆を深め

今年も「望年会」開催



1年を振り返り、その年を忘れ去る「忘年会」ではなく、来年へ希望をつなぐ「望年会」(家族望年例会)を、12月9日に北青山の「Ristorante HONDA」にて開催しました。このお店は、西麻布の名店で副料理長を務めたオーナーシェフ本多哲也氏がオープンした、四季折々の国産食材を使ったイタリアンとこだわりのワインを楽しめるレストランです。おいしい食事とワインを堪能し、家族も交えての懇談を楽しみました。



杉田L(左・計画親睦委員会副)と
今年度会長の竹内L(右)



左から杉山L(会計)、寺崎L
(PR情報委員会副)、永田L
(クラブ活性化委員会委員長)



岩佐L(左・PR情報委員会委員長)、昨年会長
としてご尽力いただいた石野L(副会長)

左から屋代L、武市L・赤塚(いずれもACT委員会)



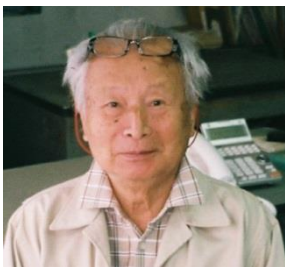
左から関口L(ライオンテーマー)、白川L
(幹事)、秋元L(テールツイスター)

内川ご夫妻(PR情報委員会)は仲良くグラスを重ねて



左から関口L・石野L・岩佐Lの奥様方
食事もワインも楽しみ、お話も弾みました

秋元Lの奥様(左)と白川Lの奥様



楢崎L(ACT委員会委員長)



杉山Lのお嬢様とお孫様
食事のマナーも完璧な小さな
紳士に感服



ソムリエ(シェフの弟さん)に
ワインを選んでいただき、一
層食事がおいしくなりました

食事を楽しんだあとは恒例のプレゼント抽選会

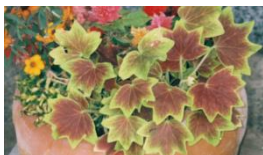


何が当たったか、お楽しみ!



ライオンロアーでお開きとなり
来年へ望みをつなぎました

当番さん方がシェフを囲んで
楽しい時間を有り難うございました
当番の方々、お疲れ様でした



今年度の活動から

フィリピンへ古着を送りました

当クラブでは、フィリピンイロイロライオンズクラブとの交流を続けており、進学を目指す学生への奨学金援助のほか、古着を送る活動を続けてきました。今年度はなかなか古着が集まらず心配しましたが、武市Lの熱心な呼びかけで何とか間に合い、例会で武市Lから報告されました。

クラブを移した小野Lの協力もありました。ご協力くださいました皆様、有り難うございました。



活動報告中の武市L、いい顔での報告です

「3クラブ合同例会」開催



竹内会長、白川L、杉山L、秋元Lがご挨拶

例年、東京剣道ライオンズクラブ・東京中野ライオンズクラブとの合同例会を開催していますが、今回は東京中野ライオンズクラブが幹事となり、東中野west53rd日本閣にて10月23日18時から開催されました。



東京中野L.Cの厳粛な入会式
私たちも一緒にお祝いしました

白川Lの奥様が主宰する教室の生徒さんによるアトラクション



クラブ例会メンバースピーチより

「海外一人旅の楽しみ方」

永田 晴夫



6年ほど前から、毎年一人でヨーロッパの北欧3国ほか5か国に出かけています。以下は私の一人旅の楽しみ方とその方法です。

1. 目的をはっきりさせる

10年ほど前から、「バイキング」の歴史に関する映画、本などのいろいろな情報を集め出しました。そしてバイキングが渡った都市、国を訪ねる旅が始まりました。旅行の時期は9～10月で期間は10日あまり。新年から計画を立て、6月までにはHISの社員と相談し、航空券、ホテル等の手配をします。行く先は国立博物館、各地の野外博物館、民俗村、その他の遺跡などです。

バイキングとヨーロッパ中世史を学ぶため、最近は大学での授業を聞きに行っています。「次はどこに行くか」「何を見るか」という興味と関心は、結局丸1年間続くわけですので、目的さえはっきりしていれば、海外一人旅をいわば1年中楽しむことができるのです。

2. 無理をしないこと

ヨーロッパまで飛行機で行くにはどうしても10～12時間はかかります。着いた日と帰国する日は、一切プランを立てず休む日にします。一貫して「疲れたら好きなだけ休む」「できることしかしない」ことに徹すると、自分本来のリズムを取り戻し、なんとなく健康になったような、若返ったような気分になります。

1つの都市・街には必ず2日以上滞在すること、最小限ギリギリの荷物しか持たないことも大事な鉄則でしょう。

3. 旅も人生である

私の手帳の裏表紙には「人生不如意十常八九」（人生は十中八九思い通りにはならない）と書きつけてあります。私は、人生の喜びは「驚き」にあり、また「旅の目的」も「驚きにぶつかる」ことにあると思っています。



アイルランド西端リムリックにて

外国では、いろいろな不便や期待外れに遭います。「それも当然さ」と受け止める心のゆとりを持ちたいなあと願いつつ、さて来年はどこに行こうかとわくわくしています。

「浦和レッズとともに」

惣田 雄二 L



サッカーに興味を持ったのは中学生の頃です。当時は野球が全盛の時代で、野球部ではエースの控えにしかありませんでした。でも、サッカーであればレギュラーになれたので、サッカー部に入部しました。

その頃のサッカーといえば、日本リーグは黄色い芝生の上で観戦、観客人数もまばらでした。1993年にJリーグがスタート。なかなか勝てずに「マンネン」最下位だった浦和レッズを応援したのがサポーターになったきっかけです。それから22年が経過しました。



クラブカラーの赤一色に染まるスタジアム

昔は、常に試合中は立ちどおして、跳ねながら大声を出して応援していましたが、体力の低下は否めません。ここ7年は年間シーズンチケットを契約し、都度観戦しています。時間の余裕があれば、アウェイ観戦に地方も回りますが、妻はより過激で、小生を残して一人で海外ツアーにも参加しています。

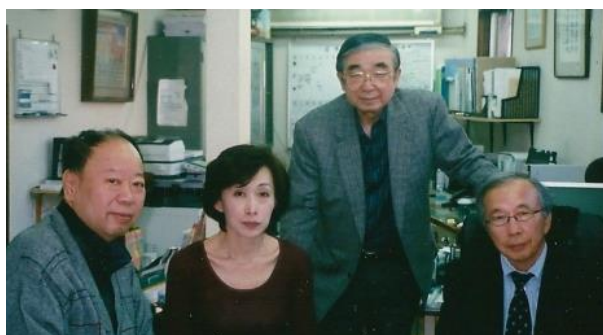
応援チームが勝つと何よりも嬉しく、鳥肌が立つのはもちろん時に感涙することもあります。どんなに負けていても勝利を信じて、最後のホイッスルが鳴るまで応援するのがサポーターです。

2015年は残念ながらチャンピオンシップに敗れ優勝を逃しました。本来ならいい写真を投稿したかったのですが、ショックでそのような気分になれず、この写真を掲載します。来年こそは…。来年こそは…。



～編集後記～

今号の編集打ち合わせには足利Lの事務所をお借りしました。足利Lは療養中のため例会欠席が続いていましたが、編集打ち合わせにも参加していただきました。元気そうなお姿に安堵。また、例会でお会いできる日が楽しみです。



足利L、編集お手伝いの小高さんと共に打ち合わせ中の一コマ

編集 東京しいの木ライオンズクラブ PR情報委員会

岩佐 哲雄 寺崎 務 内川 和久 細野 政和